

授業科目名	文化人類学(2000017)		
時間割名	文化人類学(54102)		
時間割担当	森田良成		
実施期	前期	単位数	2 選択
曜日・時限	金・4		

授業の目標・概要

文化人類学では、私たちの日常を、文化という意味の網の目に支えられてはじめて成立し、生きられるものになっているととらえている。文化人類学はフィールドワークを行い、民族誌を記述して、異なる文化のより深い理解を目指し、自らの価値観を相対化するための学問である。この講義では、私たちの一生や日常生活に引き寄せながら、文化人類学の実践例を解説していく。これまで慣れ親しんできたものの見方や考え方からいったん離れて、生きた現実を新しくとらえなおすための手がかりを得てもらう。

学習の到達目標

文化人類学の基本的な考え方を理解して、それに基づいて自ら考えを展開できるようになること。それぞれにとっての日常の「当たり前」をとらえなおして、社会とのかかわり方について再考できるようになること。

授業方法・形式

教員が調査地で撮影したものをはじめとする映像資料を活用する。毎回、質問に対する答えやコメントを提出してもらう。

授業計画

- 第1回 イントロダクション: 授業の目標・進め方・成績評価の方法を説明し、授業全体の概要を確認する。
- 第2回 フィールドワークと民族誌 : 文化人類学の学説史を概観するとともに、研究方法の特徴を理解する。
- 第3回 フィールドワークと民族誌 : 文化人類学の学説史を概観するとともに、研究方法の特徴を理解する。
- 第4回 人間の生と死 : 人間の生き死にを社会的な現象としてとらえなおす。
- 第5回 人間の生と死 : 人間の生き死にを社会的な現象としてとらえなおす。
- 第6回 人間の経済 : 「社会に埋め込まれた経済」という概念を理解する。
- 第7回 人間の経済 : 贈与と売買というふたつの経済のあいだで、社会と経済がどのような関係をつくりえるのかを考える。
- 第8回 人間の経済 : 贈与と売買というふたつの経済のあいだで、社会と経済がどのような関係をつくりえるのかを考える。
- 第9回 通過儀礼 : 個人が一生のうちに経験する、他なる自分への変身と他なる世界への移行について考える。
- 第10回 通過儀礼 : 個人が一生のうちに経験する、他なる自分への変身と他なる世界への移行について考える。
- 第11回 呪術 : 災厄の説明体系としての呪術のありかた、呪術が単なる「誤った科学」ではないことを理解する。
- 第12回 呪術 : 災厄の説明体系としての呪術のありかた、呪術が単なる「誤った科学」ではないことを理解する。
- 第13回 家族 : 家族および性のありかたが、自然あるいは文化によってどこまでつくられたものなのかを考える。
- 第14回 家族 : 家族および性のありかたが、自然あるいは文化によってどこまでつくられたものなのかを考える。
- 第15回 まとめ: 全体のまとめと補足

成績評価の基準

試験 60% 授業への参加・貢献度 40%
 (持ち込み一切なしで、作文をしてもらう。 授業での発言のほか、主に毎回提出してもらうコメントから評価する。)

授業時間外の課題

異なる文化、未知なる他者の理解をテーマとした著作や映像作品に触れておくこと。

メッセージ

文化コミュニケーションとあわせて受講すると、理解がもっとも深まるはずです。
 ふだんの読書によって、自ら考えて表現するための作文の基本を習得しておいてください。

教材・教科書

特に使用しない

参考書

春日直樹編 (2008) 『人類学で世界をみる』、太田好信・浜本満編 (2005) 『メイキング文化人類学』 ほか授業中に指示する。